

2021.06.24
大学博物館等協議会シンポジウム
「コロナ渦における大学博物館と学芸員養成」

講演②

「密を避ける」ための苦悩
ー コロナ渦における藝大美術館の学芸員課程 ー

東京藝術大学大学美術館
熊澤 弘

1

コロナ渦における藝大美術館の学芸員課程

発表概要

序. 展覧会中止・休止・延期・・・2020年度以降の藝大美術館

1. 藝大美術館の学芸員課程：概要
2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）
3. 作品・資料に触れさせられないジレンマ
4. 今後の対応と展望

2

序. 展覧会中止・休止・延期・・・2020年度以降の藝大美術館

○藝大美術館の活動

学芸（所蔵品管理）

- ・東京美術学校開学以来収集され、教育に活用された資料（古美術を中心とした芸術資料）、学校の記録としての学生・教員作品（卒業制作、自画像など）のコレクションの管理。
- ・展覧会業務（自主企画／他部局主催企画／事業者との共催）

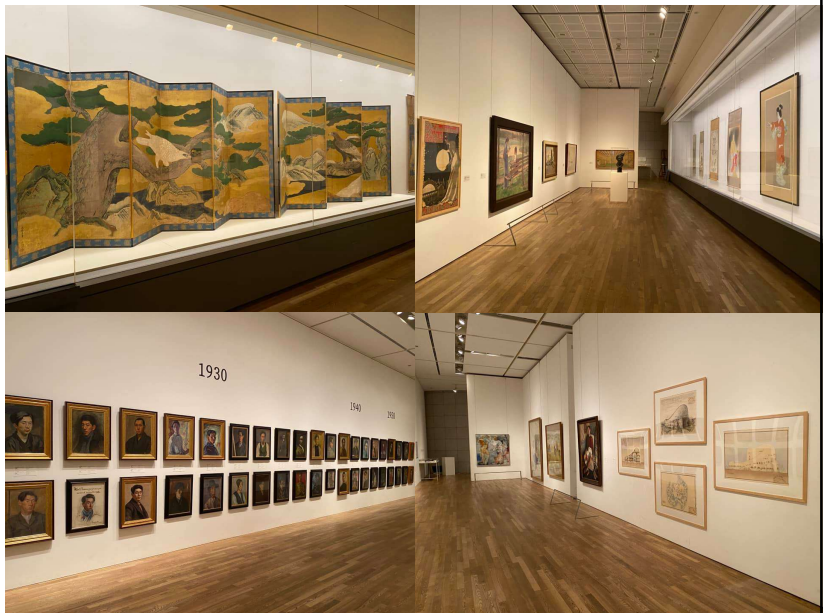
*開館の是非、入場制限の基準→大学の方針に準拠

「東京藝術大学における新型コロナウイルス感染症(COVID - 19)対応指針」

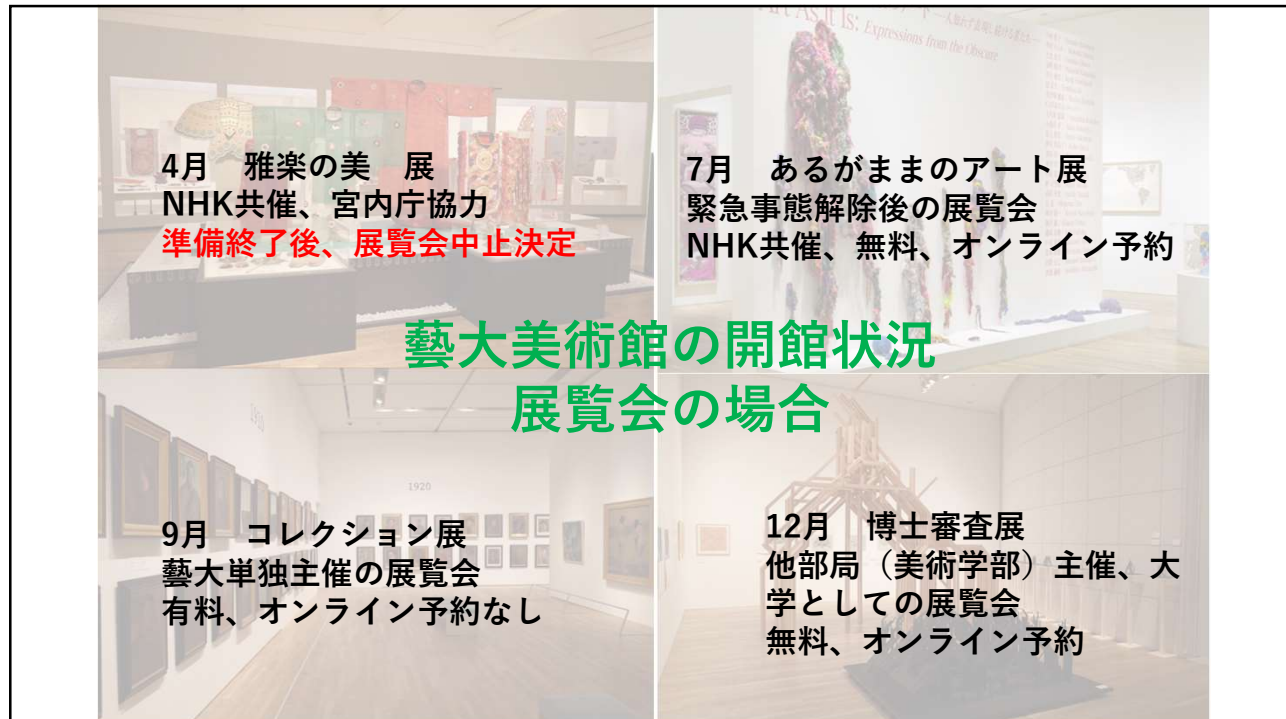
3

展覧会事例：藝大コレクション展2020

大学の美術資料のコレクションを、東京美術学校の最初期のコレクションが教材として使われたこととともに、学生の制作記録である卒業制作、自画像コレクションを体系的に紹介。



4



5

1. 藝大美術館の学芸員課程：概要

① コレクションを活用した教育（授業、実習など）

→美術学部などの教育活動への協力・連携（授業閲覧など）

→大学美術館開設の学芸員課程での使用



6

1. 藝大美術館の学芸員課程：概要

○藝大の学芸員課程の特徴

- ・美術系博物館・美術館及び美術資料の取扱に重点
- ・藝大コレクション（東京美術学校以来の美術資料）の活用
- ・藝大美術館の設備（本館展示室等）の活用

7

1. 藝大美術館の学芸員課程：概要

○藝大の学芸員課程の特徴

- ・履修者：美術学部・大学院／音楽学部・大学院
大学院国際芸術創造研究科（GA）／科目等履修生
- * 理論系（美学美術史）が1/3～半数程度いるが、実技系、
保存修復系、アートプロデュース系（GA）等、履修生は多様
- * 近年は、留学生の履修も増えている

- ・実物（所蔵品／それ以外の資料）に触れる機会は、基本的には
「美術館実習」に集中している。

8

2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）

- ・「座学」・・・「美術館実習」以外の全講座
 - ・コロナウィルス禍によるオンライン授業準備は、2019年度末から始まり、すべての「講義」は基本的にオンラインに移行。
 - ・LMS（学習支援システム）・・・Google Classroomを使い、授業の動画配信は、Google Meetが中心に。
- * 途中よりZoom利用の講義・会議が主に。

→→では実習は??

9

2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）

東京藝術大学の博物館学課程（学芸員資格） * 必修科目のみ

博物館法施行規則に定める科目		本学における開設科目			
科目	単位数	科目	単位数		
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論（後期）	2	オンライン
	博物館概論	2	博物館概論（前期）	2	オンライン
	博物館経営論	2	博物館経営論（集中）	2	オンライン
	博物館資料論	2	美術館資料論（後期）	2	オンライン
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論（前期）	2	オンライン
	博物館展示論	2	企画展示論（後期）	2	オンライン
	博物館教育論	2	博物館教育論（集中）	2	オンライン
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論（後期）	2	オンライン
	博物館実習	3	美術館実習A・B（集中）	3	オンライン？

10

2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）

「美術館実習」：美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させることを目的とする

→→実物を取り扱う主な機会

*館務実習は設定していない。

- ・本館展示室の設備を利用した取扱い実習

11

2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）

「美術館実習」 2019年までのプログラム

- ①実習の心構え
- ②平面作品の調査・展示・取扱い
- ③古美術の取扱い 掛幅装／卷子／茶道具
- ④刀剣の取扱い
- ⑤照明の基礎

12



13

2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）

「美術館実習」 2019年までのプログラム

- ①実習の心構え
- ②平面作品の調査・展示・取扱い
- ③古美術の取扱い 掛幅装／卷子／茶道具
- ④刀剣の取扱い
- ⑤照明の基礎

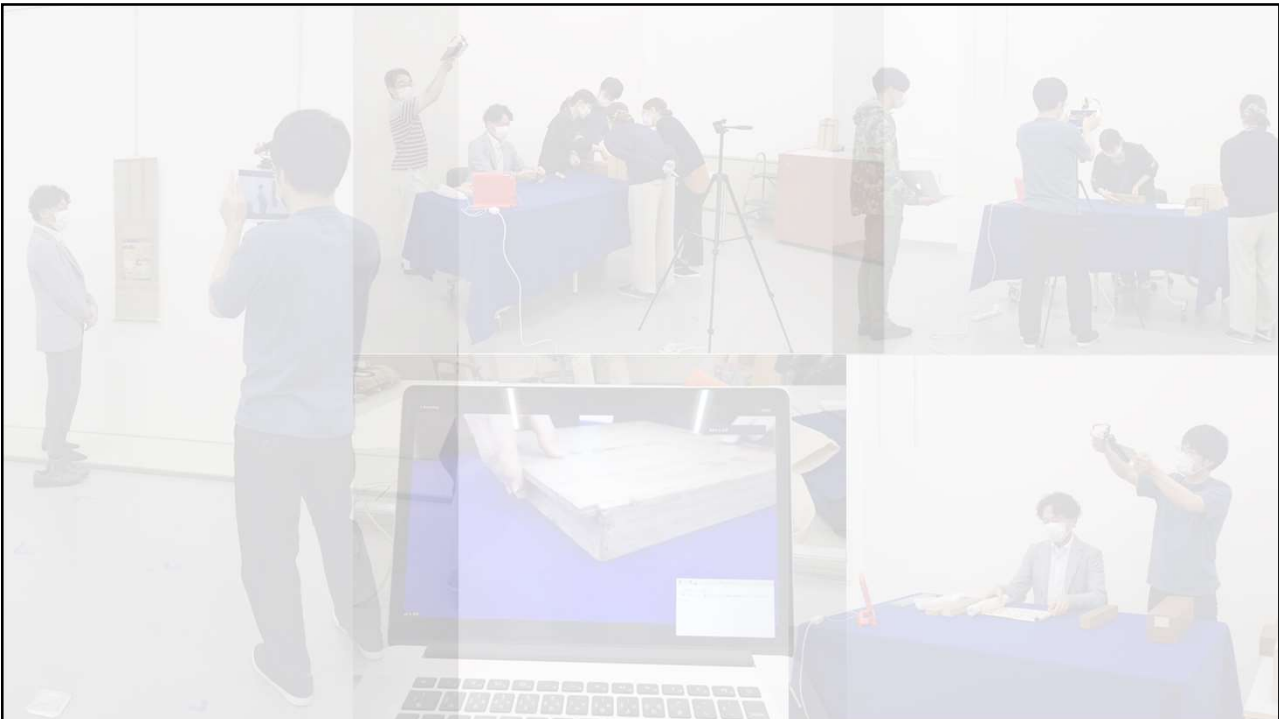
→2020年度実習（夏季の集中講義期間）では、学内に入構が可能になっていたものの、一度に大勢の学生を受け入れられず
また、そもそも東京に来られない学生もいた（留学生含む）

→オンラインにて、資料の取扱いを説明する動画配信に移行

14



15



16



17

2. 2020年度の学芸員課程（座学授業／実習）

- 2020年度実習（夏季の集中講義期間）では、学内に入構が可能になっていたものの、一度に大勢の学生を受け入れられず
また、そもそも東京に来られない学生もいた（留学生含む）
- オンラインにて、資料の取扱いを説明する動画配信に移行

*** 対面の実習も、希望者を対象に実施。
（単位取得要件にしないことを条件とした）**

18

「集中講義「美術館実習」における感染防止対策」の例

「美術館実習」：美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させることを目的とする

> 古美術（掛幅装・巻物・茶道具・刀剣）と、作品を収納する箱の取り扱いについては、希望する学生に対して、実際に経験し内容の理解を深めるための授業がどうしても必要であった

19

「集中講義「美術館実習」における感染防止対策」の例

> 事前に**受講者名簿**を回ごとに作成。各自検温と体調のチェックを済ませたうえで手洗いまたは手指の消毒をし、マスクを着用して来館することを徹底。

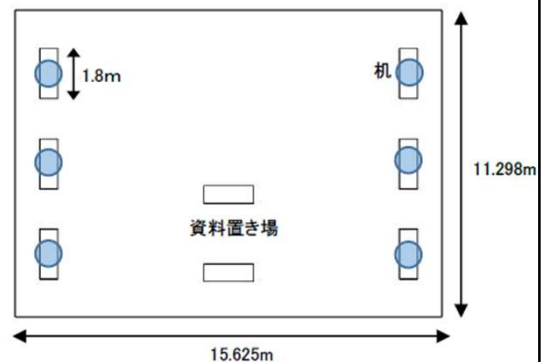
> 閲覧後、感染が発覚した場合にはすみやかに大学美術館へ連絡するよう周知。

> 学生は**机（幅180cm）に一名ずつ**座り他の**人との距離を常に2m以上**とる。

> 資料の取り扱いの実習を行うに際し**資料と道具はできる限り共用しない**。

> 資料に触れる前に都度**アルコールで手指を消毒し**、不必要にその他の部分に触れない。

> **各回の前後には実習の道具類、机**といす及び動線となるエレベーターのボタン等の**消毒を徹底**。



20

3. 作品・資料に触れさせられないジレンマ



2019年以前



2020年

課題：

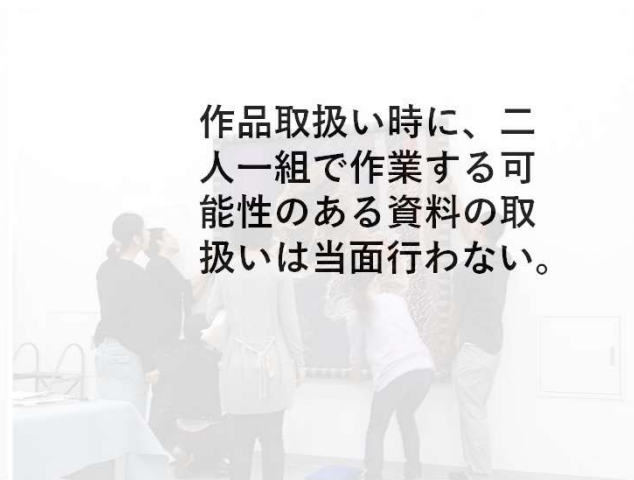
- ・実物資料に触れる機会の減少と、代替的な内容の可能性
- ・「オンライン実習」の実情

21

3. 作品・資料に触れさせられないジレンマ



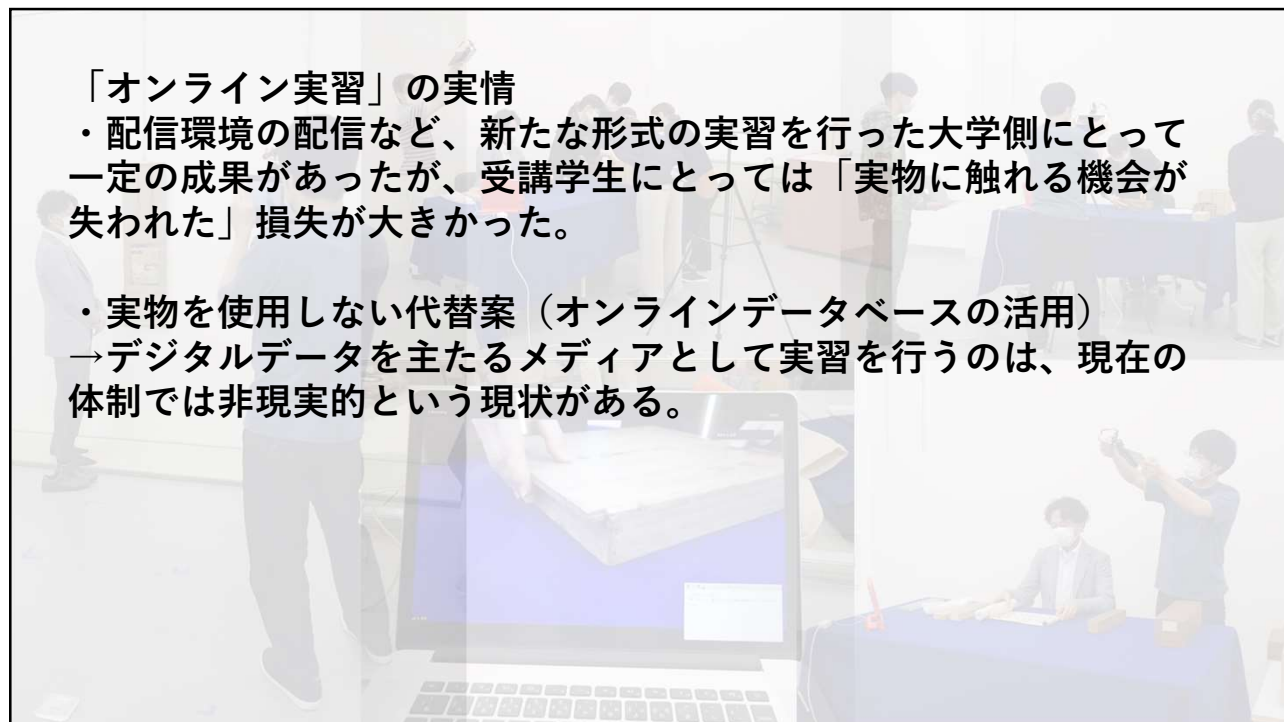
2019年以前



作品取扱い時に、二人一組で作業する可能性のある資料の取扱いは当面行わない。

2021年（予定）

22



「オンライン実習」の実情

- ・配信環境の配信など、新たな形式の実習を行った大学側にとって一定の成果があったが、受講学生にとっては「実物に触れる機会が失われた」損失が大きかった。
- ・実物を使用しない代替案（オンラインデータベースの活用）
→デジタルデータを主たるメディアとして実習を行うのは、現在の体制では非現実的という現状がある。

23

4. 今後の展望と課題

- ・従来の作品取扱い中心のプログラムからの路線変更
 - * 所蔵品を取扱う機会の減少は避けたい
 - * その一方で、実習者同士の距離の近い「取扱い」行為は当面避ける必要あり。
- ・作品取扱いの機会の確保と、感染対策の両立（実習場所等）
- ・二次資料データ（高精細画像／オンラインDBの情報）の活用
↓
- ・講義者・受講者ともに、実物資料を活用する機会を強く求めている現状のなかでどのように折り合いをつけるか？が課題に。

24